

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272600972		
法人名	社会福祉法人 八千代美香会		
事業所名	グループホーム美乃里		
所在地	千葉県八千代市村上573-5		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

八千代市、千葉市、船橋市、習志野市で特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、居宅介護支援事業所と幅広く運営する社会福祉法人のグループホームです。『居心地の良い家を作ろう』を理念として、入居者の皆さまには自宅に次ぐ、「第二の家」と思っただけのように職員一同、日々頑張っています。通院は家族任せにして負担増大を招かないよう、基本的に職員で対応することで状態把握の一助としています。居室やリビング空間は充分な広さを確保しており、ゆったりとした気持ちで生活できます。待機者が多数にのぼっていることから、当ホームの援助や環境が入居者や地域に認められていると実感しております。また、併設しているデイサービスや地域に開放している多目的ホールなどを活用し地域との交流も進め、隣接する特別養護老人ホームとも密接に連携し、互いに行事等を企画・実施するなど、地域で最後まで楽しく穏やかに暮らせる環境を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「居心地の良い家を作ろう」という、ホーム独自の理念を掲げ、どの様にしたら利用者が残りの人生を楽しく暮らして頂けるかを、常に考えてサービスを提供することを基本方針としている。管理者は、何事においても利用者が第一という考え方を大切にし、すべての職員がその考えに基づいた行動がとれるよう指導している。利用者の言葉に傾聴し、把握した意向や要望がすぐに叶えられるよう柔軟に対応することで、利用者の満足につなげている。利用者アンケートでは、利用者が大切にされていることや柔軟な対応が評価され、満足度も極めて高い。また、法人他施設と連携をとって、地域との交流を進め利用者に対する理解と協力を得ることに努め、医療面での充実を図って利用者や家族の安心につなげている。利用者の毎日は自由度が高く、持てる力を十分発揮して今ある生活が楽しめる環境となっている。地道に方針に取り組み、着実に理念とする居心地の良い家づくりが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地の良い家を作ろう」を理念としています。人により心地良さの捉え方はそれぞれですが、入居者第一に考え、日常のコミュニケーションの中から希望や意向を汲み取り職員間で共有、実践できるようにしています。	毎朝の朝礼で、利用者が化粧品を買いに外に出たいと云う様な日常の要望に対して、職員はすぐに対応したかを話し合い、理念に沿った行動であったかを振り返っている。ユニット会議では、一か月間の気づきをテーマに取り上げ、理念を意識した課題の解決方法を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩を通して地域住民との交流は図られています。また、ホーム内にある多目的ホールを地域の自治会の会議場に利用していただいています。地域が主催する敬老会や会合へも参加して交流が図られています。	ホームの多目的ホールを自治会活動に場所提供するなど、日常の近隣との交流を大切にしている。法人主催の運動会やクリスマス会でも利用者と地域の住民が交流できるよう支援している。中学生の体験学習や、小学生との交流が企画され、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学校の体験学習が定期的実施されており。また保育園とも定期的に交流会が行われています。認知症の方とコミュニケーションを図っていくことで、認知症の理解にも繋がっていると感じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員代表、地域包括センター職員、市の介護相談員とホーム長、管理者が参加し開催しています。日頃の取り組みを写真で紹介し、意見交換を行っています。	運営推進会議は年間計画に沿って、定期的開催されている。会議議事録からは、ホームの基本方針と実施計画についての説明や、日常生活の援助等活動状況が写真を用いて説明され、質疑応答が行われていることが確認できた。	運営推進会議では、入居者の状況報告や活動状況の報告が主となっている。事前にテーマを提示し資料を準備して、参加者の提案や意見がサービスの向上に活かされる場となるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の担当課へ出向き、待機者数や現況報告を行っています。	市の長寿支援課とは現状報告や待機者の情報交換等で定期的に出向き、連携を図っている。地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加や、介護相談員の訪問など協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が主催する内部研修を通して知識の向上を図り、身体拘束を行わないケアは実践しています。徘徊や転倒の危険性を伴う方に関しても見守りやセンサーマット等を利用して対応しています。	法人全体で、身体拘束の排除に取り組んでいる。身体拘束委員会が中心となって、内部研修を実施し拘束をしないケアに努めている。言葉遣いの面でも接遇委員会が研修を行い、言葉による抑圧につながらないように職員意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義についてはユニット会議等を通して周知しています。(身体的な暴力だけが虐待ではないこと)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての細かい内容は研修等を通して理解を深める必要があると考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと時間をかけて理解、納得していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見や要望があった時にはすぐにユニット会議や申し送りを通して職員へ周知しています。	周年行事や敬老会、クリスマス会の機会をとらえて家族会を開催し、利用者や家族の要望を聞き取ることに努めている。提案された要望は、ユニット会議で検討・周知され、3か月に一回発行される実施状況報告書で家族に知らされている。	家族会は大きなイベント時に開催されており、家族の細かな要望の把握に課題を残している。広く家族からの要望をくみ取れるような、仕組みの工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているユニット会議や日々のコミュニケーションの中から意見や提案、要望を汲み取っていけるよう努めています。	管理者は、フロアによく顔を出して職員と日々コミュニケーションをとることを心掛けている。管理者が職員に声掛けをすることで、相談機会を多くし要望や提案が、迅速にサービスに反映されるよう努めている。ユニット会議で提案されたアイデアは必ずやってみることを実行している。	居心地の良い家を作るという理念を実践していくための基本方針が明示されている。目標を設定し、委員会活動等を通じて職員自らが運営に参画し、目標達成に向けた意識を向上させるための取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や人事考課、それに伴う給与・賞与の支払いなどで向上心を保てるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップを図るべく、法人全体での研修や事業所内での研修を定期的に行っています。また、外部での研修にもなるべく参加できるよう配慮しています。国家資格取得時の登録費用助成や資格手当の支給、法人内での受験対策講座の実施など、資格取得への支援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホーム等と交流の機会をつくり、情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を訴えられる場合は傾聴し、前向きに入居いただけるような働きかけを意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み前に必ず見学にお越しいただき、なぜ入居を検討されるのかを伺っています。質問にもお答えし、不安や悩みを出来るだけ表出頂けるよう働きかけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービス以外の相談があった際には、希望されるサービスの事業所紹介や保険者への取次ぎなど、相談対応も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間が家族より長いことから、共に暮らす家族に近い関係を目指しています。家事や日々の業務も助け合いながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には様々な協力を依頼し、サービスを提供しているのが現状です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会はもちろん、面会自体が自由になっています。	近所の住宅街が散歩コースになっており、職員は利用者が近隣の方々と馴染みの関係となるよう、声掛けを行って新しい馴染みの関係となるよう支援している。利用者の実家の年末行事の参加を支援し、古くからの馴染みとの関係継続の支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の雰囲気作りのためにも、入居者個々の関係性が充実したものになるよう、場合によっては職員が間に入って円滑にコミュニケーションが図れるように日々支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特別養護老人ホームに移動された方に対してはお会いする機会もありますので声掛けはしていますが、家族については特にお会いする機会がないのが現状です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の要望を取り入れた生活を提供し、個々の思いや意向も職員一同、傾聴するよう努めています。	職員の定着率が高く、利用者とともに長く過ごす中、「傾聴」の大切さが職員間で共有されている。傾聴に心掛け個々の思いや意向をくみ取り、朝の申し送りやノートで情報を共有している。家族からは食事会や面会時に、具体的な要望等の把握に努めている。全職員が「傾聴」に取り組む姿勢を評価したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴をお聞きして、ホームでの暮らしの中で快適な日々が送れるよう意識しながら援助しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議、毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送りを通して意見・情報交換を行い、日々変化する入居者の状態に柔軟に対応できる体制を整えております。家族が面会でいらしゃった際に現況をお話して意見をいただいたりすることもあります。	職員による傾聴から得た情報、法人の看護師のアドバイス、理学療法士からの身体援助に関する相談やアドバイス等から、ケアマネジャーがチームの中心となって、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録と月のまとめ記録をとることで、状況の把握に努めています。記録は四半期に一度、ご家族に送付し、現状把握の一助としてお使いいただけるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスはもちろん、隣接する特養やデイサービス・居宅支援・ショートステイなどと連絡を取り合い、さまざまな観点から支援できていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事等に参加し、交流を持てるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医との協働は非常にうまくいっています。他の医療機関受診も自由です。周辺に多様な病院があるため、かかりつけ病院にこだわらず、ある程度の希望に応じた医療が受けられるよう支援しています。	提携病院から週一度往診があり、看護師も毎週全員の健康状態確認に来所している。法人看護師、診療所看護師、提携病院看護師が連携をとり、利用者の現状はよく把握されている。医療連携が充実され健康管理が行き届いており、家族からも厚い信頼を得られていることがアンケートからも窺える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携はうまくいっていると思います。訪問看護師はもちろん、隣接する特別養護老人ホームの看護師も当ホームの入居者の健康管理と医療活動の支援を行っています。主治医往診日も両看護師が同席しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLの低下予防の為にもなるべく早く退院できるよう、MSWなどと連携しながら援助を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な支援が必要となってきた場合は今後の方針について特養への移動を含め家族と話し合いをする機会を作っています。	重度化して医師による治療が必要となった場合は、家族の希望を聞いて病院を紹介している。医療的な支援がふさわしい場合は、特養など看護師常駐施設への移動を支援している。いずれも家族の考えを尊重して、ぎりぎりまで支援するという方針を共有しながら、利用者・家族の安心につなげるよう取り組んでいる。	看取りに対する家族からの希望もある。利用者・家族と日ごろからよく話し合いを行って、将来の不安の解消を図るための取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には管理者またはユニットリーダーの指示を仰ぐこととなっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行い、隣接する特養と連携した防災活動の訓練を行っています。3日分の食料・水の備蓄も行いました。	スプリンクラー、火災通報装置が設置されている。隣接の同法人の施設と年3回避難訓練を合同で行い、2回は消防署が立ち会い消火器の取扱い等細かい指導を受けている。夜間の災害対応については、同法人施設との協力体制が決められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねないよう、言葉使いや接遇には十分配慮しています。	接遇委員会の活動を中心に、尊厳や接遇についての考え方を、会議等を通じて職員に伝えている。家族からは「一人の人生の先輩として、大切に接してくれている」「人間味あふれる職員の方々に囲まれて幸せに暮らしている」と深い感謝の思いがアンケートに寄せられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか決められない場合でも職員は待ちます。時間をかけてでもなるべく、ご自分で決めていただくよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット会議でもって個々のニーズの共有、理解に努め、最優先しています。レクリエーションでは何をしたいか必ず意見を聞いています。まとまらない時には職員が決めてしまう時もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室があり、カラーリングやパーマも希望に応じて可能なため、そちらで現状は満足されています。中には、近隣の美容室を利用されている方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一回、職員で献立を作り、食材の買い出しを行う日をつくっています。入居者の好みや季節の食材を用いて食事の時間を楽しんでもらえるように努めています。	職員と一緒に食材を買いに行くことを、利用者は喜びとしている。もやしの根取りや下膳、食洗機に入れる前の下洗い等利用者の力が活かされるよう支援している。職員と一緒に食事を摂りながら嚥下状態を確認し、刻み食やミキサー食への切り替えの提案を行い、楽しい食事となるよう努めている。水分摂取量を記録し、好みの飲料を提供するなど脱水防止にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考えておりバランスの取れたメニューになっています。糖尿病や肥満傾向の方については食事量を調節し援助しています。水分は提供機会を多めに設定しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLが低下している入居者でも立位が保てるようにはなるべくトイレ誘導を行い、維持できるよう努めています。	排泄チェック表で、個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄を支援している。便秘は医師の指導で薬で調整し、3日排便がなければ看護師が下剤や坐薬を使用する等、早めの手当を行い快適な生活を継続できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立チェック・検食と、意識的な水分提供を行っています。便秘傾向のある方には主治医の指示を仰ぎ対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日と時間は決めてありますが、希望があれば早い時間に入浴することもできます。入浴剤を入れてお風呂を楽しんでいただけるよう支援しています。	週に2～3回の入浴を基本としている。午後入浴を主としているが、利用者の希望に柔軟に対応し清潔保持に努めている。入浴剤、柚子や菖蒲湯等季節の香りの中で、ゆっくりとお風呂を楽しんでもらえるよう、一对一の支援をしている。また、手すりも利用者の状況に合う形や位置に設置されており、安全に対する配慮が感じられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に対応し安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を見やすく整理し、主治医や精神科医に状態を報告することで適切な服薬が可能になるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や散歩、外出行事などの提供で気分転換や楽しみの提供を行っています。編み物や裁縫が得意だった方には御家族の協力も得ながら個別レクリエーションの一環として行っていただき、委屈なく過ごして頂ける支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員同行の下で外出支援をおこなっています。一人ひとり、その日の希望という点では難しいものがありますが、なるべく本人の希望を叶えられるよう支援しています。	散歩中に、近所の人から柿を頂いたり、季節の言葉をかかわす馴染みの方がいて、外出は利用者の楽しい日課となっている。二階には富士山やスカイツリーが望める広いテラスが用意され、日光浴を兼ねた小外出の場となっている。毎月、マイクロバスとリフトバスで海ほたるや成田の養魚場、河津桜等を見に出かけて昼食を楽しんでいる。外出支援に努めていることに家族からも感謝の声が寄せられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については基本的に自由としており、御家族の判断に従う形となっています。所持している方への支援は行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡を取りたいとの訴えがあった場合には自由にユニットにある共用の電話を使っていたいただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアは毎月季節感を感じていただけるように装飾や掲示物を入れ替え、生け花などを飾っています。1階の中庭にはベンチや観葉植物を置いて、一人になりたいときには利用できるように設えています。	吹き抜けの中庭を眺めながら、ソファに腰掛けて昔話や歌の本を見て楽しめるコーナーが用意されている。リビングでは習字や貼り絵、レクリエーションの時に職員と一緒に生けた花等が飾られていた。訪問時は指体操で賑わい、楽しそうな雰囲気が見えた。冬季は気温22～23度、湿度40～50%に管理され、全体が落ち着いた色合いで、快適に過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になりたいという時は、皆さん自室に戻られることが多いようです。面会や気の合った仲間と過ごせるスペースは準備しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、火気の発生を伴う物品以外は持ち込みは自由となっています。居心地良く過ごせる居室が出来上がっていると思います。	仏壇・机・筆筒が置かれ、家族の写真等が見守る様に貼られているなど、それぞれの居室はその人らしい雰囲気が感じとれる個性を尊重したレイアウトがなされていた。利用者の好みに応じ量の部屋も用意され、落ち着きある自分の部屋となるよう工夫も見られる。家具を置いていても広く感じられ、温かなものを感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを解り易くするための表示や、居室札の個別化などで工夫しています。		